

「土浦桜川親水フェスティバル」で周知活動を行いました。

塩と暮らしを結ぶ運動では、2019年7月28日（日）、茨城県土浦市の桜川河川敷で開催された「第1回土浦桜川親水フェスティバル」（主催：土浦桜川親水フェスティバル実行委員会）において、周知活動を実施しました。その様子をご紹介します。

「土浦桜川親水フェスティバル」は、地元の桜川の存在がより理解され、桜川に賑わいを取り戻し、市民の憩いの場として定着していくことを目指して、今年度から開催されることになったもので、従来から行われていた「筑波レガッタ」との併催です。

筑波大学漕艇部が開催する「第45回筑波レガッタ」と合わせ、小学校高学年を対象とした「実験観察会」と「公園のボートを漕いでみよう会」が行われました。

当日は、熱帯低気圧の影響により開催が危ぶまれましたが、一時間遅れで開催に漕ぎ着けることができました。霞ヶ浦の成り立ちや桜川について学ぶ「実験観察会」では、子供たちが真剣な眼差しで説明に聞き入っていました。また「公園のボートを漕いでみよう会」では、お子さんと力を合わせてボートを漕ぐ保護者の姿も見られました。

このフェスティバルに協賛しているダイヤソルト株式会社（一般社団法人日本塩工業会会員）は、時節柄、また屋外のイベントであることから、来場者に熱中症への注意を呼びかけるべく、ブースにポスターを掲示するとともに、運動の塩飴やウチワ、また冊子『塩と暮らしのあれこれBOOK』の配布を行いました。

水辺であっても、熱中症への注意は必要です。塩と暮らしを結ぶ運動では、約120名の方に、塩飴やウチワをお渡しして熱中症予防に活用いただくとともに、『塩と暮らしのあれこれBOOK』をお配りして、熱中症対策だけではない塩と暮らしの関わりについても、お伝えすることができました。

